

◆岩手「クワイ河に虹をかけた男」上映会

トークイベント「ロマックスへの謝罪の旅」 駒井 修

聞き手 坂口 憲一郎

— 寄せられた 声、声、声…の数々 —

満田康弘 ドキュメンタリー映画「クワイ河に虹をかけた男」監督

16年前、盛岡の駒井さんのお宅に初めてお邪魔しました。淡々と語る口調には実直なお人柄がにじみ出ていました。物心つかない頃にお父さんと引き裂かれた駒井さん。

「戦犯の子」と陰口まで叩かれ、どれほどつらい思いをされたことでしょう。

そんな駒井さんがロマックスさんに会って謝罪すると決心されたその勇気に敬服しました。

2007年に見事その目的を果たされ、重荷から解放されたような表情は本当に晴れ晴れとしていました。

戦争の憎しみから和解へと至る。言葉で言うのは簡単ですが、駒井さんはその困難な道を見事に切り開かれました。

私は永瀬さんが、憎しみが消えない元捕虜や日本政府、永瀬さんを裏切り者扱いする一部の日本軍関係者からの中傷や批判に耐え、慰霊の旅を続けて来られたことを知っています。

永瀬さんの活動の根底にあったのは、国籍などに関係なくすべての人たちを等しく尊い存在だとみなすヒューマニズムであり、自分の立場を相手に置き換えてお考えになった駒井さんの「気づき」と軌を一にしていました。

永瀬さんが亡くなってから5年以上が経ってしまいましたが、こうして駒井さんと岩手の皆様にこの映画をお届けすることができたことは私にとって大きな喜びです。

世界には紛争の種が尽きませんが、永瀬さんのスピリットが少しでも多くの方々に届きますよう、これからも国内での上映会に加え、英語版、タイ語版の制作と海外での上映をめざして微力を尽くしていきたいと思えます。

ロマックスさんの言葉の通り、私にとっても永瀬さんと知り合えたことは「人生の特権」でした。

駒井さん、くれぐれもお体を大切になさってください。会場に来て下さった皆様、本当にありがとうございました。

KSB瀬戸内海放送 報道クリエイティブユニット岡山本社 満田 康弘

\$ドキュメンタリー映画「クワイ河に虹をかけた男」 2016年7月公開\$



◆盛岡市 80 代男性

- ・永瀬隆さんの生涯は軍国時代から一貫して人間愛の真髄を貫いた貴重な日本人でした。日本人としてノーベル平和賞に値する貴重な人で日本人の誇りでもあります。
- ・「戦後を語る会」の仲間です。貴重な体験を聞きました。ロマックス氏と逢う時の緊張感が一杯でした。

◆岩手県 80 代女性

- ・先日、TV (BS) で「戦場にかける橋」を見て、関連した映画を見られることを、楽しみにしておりました。戦争は、勿論、やってはいけない、やらせない。これを心にして、孫、子を、国を守りたい。
- ・坂口さん、駒井さん、素晴らしい対談、ありがとうございます。
- ・この映画、トークの DVD、テープが欲しいです。あるとしたら、どの様にして手に入れられるのでしょうか？

◆盛岡 80 代

- ・個人の方が永い間、尽くした好意に感謝するとともに、公の機関など、もっと関心を持って一般の人に知らせてほしい。この家の人たちも“自分たちは被害者”だと思って暮らしてきたと思います。知らせて頂きありがとうございました。

◆盛岡市 80 代

- ・日本人は立派だ、悪い人もいる。戦後処理を果たして、クワイ河へと去った夫婦。涙が出ます。
- ・トークイベント、立派です。

◆盛岡市 80 代女性

- ・永瀬ご夫妻は、命尽きるまで頑張り、涙が出てたまりませんでした。戦争は絶対、してはダメです。若い人たちにも見てほしかったです。
- ・駒井さんは小さい時、お父さんと別れ、お父さんは戦地でどんなに子供たちをあんじたことか・・・。

◆群馬県 80 代女性

- ・全く知らなかった史実。ドキュメンタリーとして拝見して、心に迫るものでした。“自分が意図したのではなく生きてきたことが、外から見るとそのように見えたのでしょう”と言う、タンタンとした言葉に、本当に真実を生きた人の姿だと思わされました。
- ・トークで映画を補足して下さい有難うございました。
駒井様 どうぞ お身体大切になさって、非戦の運動を広め、戦争体験をした昭和生まれのお役目を果たすため、お力を出してくださいませ。
- ・盛岡市、その近郊の方々が、大勢、お集まりになっていることが嬉しかったです。戦争に関心を持って自分の事として考えていきたいと思えます。ありがとうございました。

◆群馬県 70 代女性

- ・トークイベントの話し方、声の質といい、間の取り方といい、とても耳に心地よくスーッと心に入ってくる内容で素晴らしかったです。須恵器のお話もうれしかったです。素晴らしいトークショーでした。

◆盛岡市 70 代女性

- ・偶然にこの機会に恵まれて観ることができて、本当にありがたかったです。ありがとうございました。
- ・お二人のお話から、少しずつ当時の時代を知ることができました。これから勉強をしていきます。

◆雫石町 70 代女性

- ・戦争の映画というと、とても見てられないひどい場面が多くて、つい、見たくない思いがあったのですが、この映画はそういう場面が少なく大変良かったです。
- ・相手にも家族がいた、ということに気が付いたという事が素晴らしかった。
- ・とても良い作品を取り上げて下さって有難うございました。

◆盛岡市 70 代男性

- ・このような現実もあらんと再考させられました。
- ・司会の方が話し上手。

◆70 代男性

- ・長期にわたる映画制作をした方のご苦勞に敬意を表します。
内容は人の心の奥底に踏み込んだ、戦争の愚かさを痛感するとともに、単なる英国人の捕虜への謝罪に終わらず、人と人との心の交流をも、その方の実録をドキュメントされたものに感銘を受けました。

◆滝沢市 70 代女性

- ・永瀬さんの事は初めて知りました。戦後、このような活動をしている人が居た事、本当に頭が下がる思いです。
- ・戦後、何十年も経っているのに、傷は消えないのですね。それでも前向きに生きていることが素晴らしいです。
- ・今日はありがとうございました。知らない事ってたくさんあります。一つ、また、知ることができました。スクリーンがもう少し高ければ良かったと思いました。

◆盛岡市 70 代男性

- ・反戦映画として多くの人に観てもらいたい。記録映画（永瀬さんの）としては最良の映画でした。是非、多くの方が観られるよう、図ってください。
- ・戦争というものは人の性格を変えてしまう。しかし、心から話し合えば理解できるものだと思った。

◆滝沢市 70 代男性

- ・素晴らしい。沖縄と共に新しい発見がいっぱい。

◆滝沢市 70 代男性

・感動した。残念なことは字幕が見えなかった。

◆岩手県内 70 代男性

・大変、感動すると共に、日本政府の反省がない事に心が痛みました。戦後は終わっていないと思いました。

◆盛岡市 70 代男性

・素晴らしい人生！！そのもの。

◆盛岡市 70 代女性

・私は、このままでいいのかと考えてしまいます。

◆滝沢市 70 代男性

・大変、感動した。日本の戦後処理は政府が真剣にやらないと、アジアではいつまでも歴史問題にされる。

◆滝沢市 70 代女性

・戦争の後始末を個人で行われたことに驚きました。思いを持ち続ける事は大変な事。大変な生涯でしたね。

◆滝沢市 70 代男性

・上映時間が 1 時間 52 分とドキュメンタリーにしては長すぎる。1 時間 15 分～20 分程度に短縮する努力が必要だったのではないか。

◆盛岡市 70 代女性

・父も戦死しているので他国の人が憎らしいとだけ思っていました。この映画を見て、日本人もすごい事をしたことを知りびっくりしました。

◆盛岡市 70 代男性

・非常に感動しました。一般的には知名度のない一人の兵士の戦争というものに対する個人のつぐないに対してこれ程に命をかけるという行為に感動しました。夫婦共に見事な一生だったと思います。

「戦争」というものの残酷さを強く感じ、絶対に起こしてはいけないと思いました。

◆滝沢市 70 代男性

・永瀬さんのすばらしい人間性、生涯を生き生きと描いており、緊迫感を持ちながら拝見した。

・盛岡の空襲の話が聞けて良かった。幅広い話題で和やかな雰囲気良かった。

◆滝沢市 70 代男性

・カンチャナブリの橋梁に行ったことはあるが、この映画にある話は全く知らなかった。今日、このことを知ったことは大変良かった。

・もう少し、駒井さんの話を引き出してほしかった。

・スクリーンが低く、スーパーが見えず、話の内容が分からなかった。

◆滝沢市 70 代男性

・日本政府が、未だになし得ていない、タイ、ミャンマー等の東南アジア侵略に対する戦争責任を、一人の人生をかけて果たしたことに感動しました。クワイ河の鉄橋をめぐる、イギリス人捕虜虐待に対するつぐないを、一人の元兵士（通訳）が人生をかけて成し遂げたという事実の重さ、その崇高な倫理性の高さを全日本人が注目し、取り戻すべき大切な時ではないでしょうか？安倍首相にもこの映画を見てもらって考えを改めてほしいと思います。

・B 級戦犯の子としての駒井さんがイギリスに行って虐待された捕虜の方とお会いした時の思い出話・・・「恩讐の彼方」とでも云おうか。敵、味方に分けられる恐ろしく、悲しい時代の子供と兵士の悲しさを深く思った。戦争こそ、本当に非人道主義だ。

・今、国民運動として、戦争を振り返り、語る大切さを思いました。

◆滝沢市 70 代女性

- ・先日、最後の方だけでしたが NHK テレビ、映画、ラジオ深夜便で駒井さんの話を聞く機会がありました。子どもの頃、日本の戦争被害の事は映画「ひろしま」「原爆の子」など学校で観に行っていたが、加害者の日本として、やってきたことについては教えられませんでした。大人になってから学びました。国がやるべき戦争処理を、一民間人が行っている。国がやるべきことをやらないから、反省をしないから、又戦争への道を歩もうとするのか。
- ・会場がもっと広く床が平らでない方が見やすかったのでは……。当日券はなく、帰ってしまった人もいたようです。文字が下の方に出るので後ろから見えにくかった。

◆盛岡市 70 代女性

- ・初めて、泰麺鉄道の映像を実感した。(元国鉄職員として先輩方書いているが)
- ・トークイベント、非常に分かりやすく、司会者のトーク良かった。
- ・今まで一番のイベントだった。

◆盛岡市 70 代女性

- ・このような方が存在していた事に感激いたしました。戦後贖罪について、かなり、考えさせられました。
- ・“生のラジオ深夜便” はとても良かった。坂口ディレクターと駒井さんとのトークは、なかなか、良かった。

◆盛岡市 70 代女性

- ・とても貴重な映画でした。残念なことにスクリーンが低かったので通訳の文字が、全然見えなかったことです。

◆盛岡市 70 代

- ・こんな状況の内、ロマックスさんが駒井さんを許したのは、駒井さんのお人柄と思われれます。長い間、駒井さんの苦労が少し報われたようで良かったと感じた。
- ・英国は太平洋戦争によりアジアの多くの植民地を失った。これは、日本人によって行われた。英国人はプライドから政府の事を口にしないが、強く、日本人を憎んでいるはず。中国侵略を続けた無謀な陸軍の上層部、アメリカの挑発に乗り、開戦した日本上層部の先を読む力のない無責任さ、現場で苦労に苦労を重ねた国民、そして、日本の最高上層部へ影響を与えない様、各部署で責任を取って死んでいった国民、戦後は上層部は上手に立ち回り、平安に暮らしていく。これが戦争と思う。
- ・真に国民の事を考える政治家が当たり前となる日本になるよう望む。

◆花巻市 70 代男性

- ・戦争に加わった人がこのような形で、加害謝罪をした方がおられるという事を、私は知りませんでした。永瀬隆さんの名をしっかりと心に刻みたいと思います。永瀬さんが追い求めたものを、私も追い求めたいと思います。

◆盛岡市 70 代女性

- ・まだ、知らないことが沢山あります。もっと、広く見てほしい。

◆滝沢市 70 代女性

- ・私、中国で生まれた子供です。75 歳。戦争とは、何で、どうして起きたのか、考えさせられた。
- ・戦争とは、お互いに敵、味方というが、心の中を互いに考えてほしいものだ。

◆盛岡市 70 代女性

- ・全く知らないまま、白紙の状態で見ました。映画(ドキュメント)の作り方には一寸思うところがありました。タイでの捕虜の扱い等、想像以上でしたので、事実が周知されることは大切なことと思いました。
- ・聞き手がトーク者になっている点、気になった。駒井氏の話はよかった。人生の余裕(時の流れも含め)が出て、初めて相手方(イギリス元兵士)への考えをはせることが出来たと思う。
- ・再上映の機会を盛岡市内(駅近辺)で開催して欲しいと思います。

◆盛岡市 70 代女性

- ・主人公、永瀬隆氏の終戦後からの生涯に感銘を受けました。強制労働等で亡くなられたアジアの人々、英国の人々に償いの人生だったと思います。日本人として、個人として、やるべきことがあっても、何となく人生を過ごしていることが多中で、反戦の強い意志と平和への願いをアピールしていった事に感動しました。その生涯を守ってくださったのは、きっと、戦没者の方々の動力もあったことでしょう。償いの気持ちは、ただ、過去を振り返り、過去に戻るのではなく、明るい平和の世界を築いていくことの希望と力であることを改めて知らされました。ドキュメンタリー映画としてリアルであり、真実、現実感がありました。
- ・駒井氏の親子関係、戦争が引き起こした人間関係のひずみ、ゆがみについて自分の事のように感じられました。戦争反対、平和へのトークイベントで良かったです。

◆盛岡市 70 代男性

- ・「日本の恥だ」と云う表現があったが、そう云う表現が日本的かも・・・！？「恥」より「罪」と云う考えが妥当ではないか。日本の政府は何故「認罪」できないのか！！「遺憾」と云う言葉は我々が使う言葉だ」と云った英国の遺族会の人言葉が胸に刺さった。私は戦後の人間だが、戦争とどう向き合って生きていくべきかを深く考えて生きていきたいと思う。
- ・戦争の話若くは若い人たちに伝えることの大切さは云われる通りだが、日本人の体験者はほとんど語ろうとしない。中国の人と話すとき親や遺族からいろいろ聞かされる話をよく耳にする。この違いは何だろう？やはり「恥」の文化の国なのか？日本の教育は被害の教材は積極的に取り上げるが加害の事実を掘り起こして教材化する力は極めて弱い。国は反省はするが行動が伴わない・・・どうなっているんだ！！
- ・戦争を考えると被害を受けた一人ひとりの何が破壊されたのか、そういう個人の人権を基盤にするべきだと思う。そういう立場に立てば日本が行ってきた非人道的な行為を認罪出来ないはずはないだろう。

◆盛岡市 70 代女性

- ・初めて知ることの多い内容でした。永瀬さんの最後の言葉、人間はどのような場所、環境にあっても人種を問わず、人間の尊重を根底に持つて生きることの大切さを教えていただきました。
- ・戦争の戦後処理とは国民一人一人の自覚と認識の問題だと思います。この映画はもっと広く多くの人々に観ていただくように伝えていただきたい。
- ・断片的な話題提供者 駒井さんのお話を、上手につなぎ参加者にわかりやすいように、かみ砕いて説明して頂き、内容が良く理解できました。話の引き出し方に感銘を受けました。ありがとうございました。
- ・若い人が数人ながら参加されており良かったと思います。

◆矢巾町 70 代男性

- ・私の父も戦死しているので、他人事ではありませんでした。感動しました。是非、この映画を全国民に見せてほしい。日本のあるべき姿を考え直して欲しい。そのきっかけにして欲しい。今日はありがとうございました。

◆矢巾町 70 代女性

- ・このような人が日本にいたと事を初めて知りました。日本政府の「おわび」が示されないのはおかしいと思っておりましたが永瀬さんの生き様を知り、戦争で「捕虜」になったすべての人に対して申し訳ないと思います。この映画は皆が観るべきです。ありがとうございました。
- ・駒井さんが盛岡の人だったことを知り、盛岡、岩手の人には尚の事、この映画を見るべきと思いました。トークによって更に内容が深まり、大変良かったです。ありがとうございました。

◆滝沢市 70 代女性

- ・知らないことばかりで良い勉強になりました。
- ・トークイベントの生の声は感動的でした。近くにこんな経験をした人を知らないのも、もったいない心境です。貴重な時間を持ってました。

◆盛岡市 70 代女性

- ・感動、感動の連続で誰もができる事ではないと思う。夫婦の絆にはかないません。自分も今は体調がすぐれません。頑張らなければと思いました。
- ・大変よい話が聞けました。生で聞くことが出来て有難いです。



◆滝沢市 60代女性

- ・国として謝罪をするというのは、いつからでも遅くないのです。お墓もなく、ただ、埋められたアジアの人々の頭蓋骨が心に残りました。言えない沢山の犠牲があったと思います。
- ・駒井さんのお元気な姿に会えたのが良かったです。

◆滝沢市 60代女性

- ・人生をかけて贖罪と和解に捧げた壮絶な人生を生き永瀬さんに敬意を表します。人として大事な事、平和に生きる努力こそが人間らしい生活が送れる社会だと教えてくれました。国の謝罪がない日本に憤りを感じます。
- ・戦争の傷跡はいつまでも続くのですね。若い世代に向けて語り継ぐことが大切だと知りました。

◆盛岡市 60代女性

- ・本当に日本政府の無責任さを見、個人として慰霊の仕事が続けられた方がいた事に、感激と有難うという気持ちでいっぱいでした。

◆盛岡市 60代男性

- ・素晴らしい映画（ドキュメント）を見せていただき本当にありがとう。ヒューマンドキュメントは日本人の本当の心、人間としての本来の心の現れだと思います。（まさに武士道）

◆盛岡市 60代女性

- ・「レイルウェイ」は観て、それなりの感想は持っていましたがドキュメンタリー映画は、さすがに説得力があり、改めて、戦争の後始末の問題は無視できない！と実感しました。
- ・証言はとても大事なことで、駒井さんのトークで拝聴しました。

◆盛岡市 60代

- ・日本人にあまり知らされていない一人の元通訳者の苦悩と勇気ある行動。かつて、敵同士だった人との和解、心情が良く描かれていたと思います。
- ・今の時代に是非、広く若い人にも見てほしい映画でした。

◆盛岡市 60 代女性

- ・作り物ではないドキュメンタリーのすごさがありました。
戦争はひどい。戦争のない世界をつくらなければ！
- ・駒井さんの苦しみ、坂口さんの主張が分かった。

◆滝沢市 60 代女性

- ・強制労働、拷問、考えられない事に、二度と戦争しない事、強く思いました。
永瀬氏の活動は日本人として幸せに思います。
- ・骨の山に驚きと共に、痛みを感じました。平和を願い暮らしたいと思います。
- ・上官の命令に逆らえない事。駒井さんの責任感の強さに、軍隊の恐ろしさを感じた。
- ・元捕虜との和解、とても難しかったと思います。謝罪の言葉は出なかった～～必死さが通じたのですネ。

◆滝沢市 60 代女性

- ・戦争当時の憲兵隊によって英国人捕虜への虐待を目の当たりにし、何もできなかった、止めることもできなかった自分の罪滅ぼしの為、タイ訪問と現地の人々への謝罪に一生を捧げた大仕事に感服し、感動しました。ただ一言映画の中で、英国捕虜に会った時の「私は何もしなかったよね！？（虐待しなかったよね！？）」にひかかりがありました。とても、マネのできる仕事ではないと思いました。二度と悲しい戦争は繰り返してはいけないと思う。最近のキナ臭さが、大変、気にかかります。
- ・ロマックスさんの「過去を消し去ることは出来ないが、未来に向かって進むことが大切である。」互いが理解し合う事が、戦争を防ぐ、起こさない、平和を築く事だと思う。
- ・国家の前に基本的人権が存在することを、今の政権が忘れていることに不安を感じる。

◆盛岡市 60 代

- ・3/16、知り合いから、本人が当日、都合がつかなくなったとの事でチケットを頂きました。チケットをもらわなければ知ることのないお話でした。善かったです。
- ・「日本の恥だ」奥さんの言葉が残ります。

◆滝沢市 60 代女性

- ・知っているつもりになっていたことに反省しました。当事者でないと判らないことが沢山、今でも、被害感情がある人たちが世界中にいるのですね。一人一人が思いやりの虹をかけないと連鎖は止まらないですね。
- ・トークイベント、淡々としたお話でしたがご苦労が沢山、おありだったと胸が詰まります。

◆盛岡市 60 代女性

- ・クワイ河に虹をかけた永瀬さんと奥さんの生き方に圧倒されました。日本の国は負けたことを理由に、日本の兵士も侵略、虐待した他国の人たちの慰霊もしていない。それだけではなく、南京虐殺や慰安婦の事実をなかったことにしようとするしている。「遺憾である。」と言って謝罪しない、日本人として、一人の人間として、永瀬夫妻の生き方に心を打たれました。
- ・エリックロマックスさんと駒井さんの再会の時のお話は、戦争の残酷さ、決して戦争はやってはいけない事を改めて感じました。
- ・このような映画や戦争の真実を知る会を、もっと、やってほしい。沢山の人が参加しておられ心強く思った。

◆盛岡市 50 代女性

- ・戦争の痛ましさを知れてよかったです。もっと、多くの人に観てほしいと思います。
- ・別の場所で本格的に上映して欲しいと思います。思ったより多くの人でびっくりしました。

◆盛岡市 50 代女性

- ・感動しました。当時の捕虜の方と再会が叶い、永瀬さんの言葉があって生かされたこと本当に良かったです。人の思い、心が人をつなぐのだと思いました。永瀬さんと佳子さんの二人三脚の謝罪の旅の軌跡は感慨深く、胸に迫るものがありました。戦争の愚かさ、日本政府の見て見ぬふりの態度に怒りがこみ上げて来ます。今、戦争に向かってるように見えてならないのですが、二度と同じ過ちは犯してはならないと強く念じています。
- ・お二人のトークをお聞きし、映画がさらに深まりました。あつという間の時間でした。

◆盛岡市 50 代女性

- ・こんな方がいらしたこと、活動があったこと、ちっとも知らずに過ごしてきています。「国が謝罪しない」ことに対する捕虜の怒りが印象的でした。日の丸を焼く姿も。
(実際の“戦争”に赴いた人を直接知らない、我々世代すら「お詫び」について、どう考えていいのか、歴史教育の中で戸惑っているのが正直なところです。)
- ・「話がそれましたが」というフレーズが 2 回ありましたが、駒井さんのお話を中心に進めていただけたらよかったですかなと思います。少々、語り口はなめらかでも、逆に、眠くなってしまいました。最後の須恵器の音出しは悪くありませんでした。
- ・企画、開催 ありがとうございます。こういう集まりにこられる方々は高齢の方が多くようですが、もっと若い世代にも是非見てもらって、伝えて、考える機会にしてもらいたいです。

◆盛岡市 50 代女性

- ・永瀬さんという方、今まで、知りませんでした。本当に素晴らしい活動。この映画を広げてください。

◆盛岡市 50 代女性

- ・素晴らしい映画でした。戦争を知らない世代として、改めて、戦争の恐ろしさ、日本のしてきたことを知ることが出来ました。一般の映画館でも是非、上映して、皆さんに見てほしいですね。
- ・トークイベント、とても分かりやすく、より深く色々知れました。楽しかったです。
- ・スタッフの皆様、お疲れさまでした。

◆盛岡市 40 代女性

- ・今まで知ることのなかった泰麺鉄道について知ることが出来たのが一番良かった。後半の永瀬夫妻のストーリーは、もう少し、コンパクトにした方が見やすかったかも・・・。

◆滝沢市 40 代女性

- ・戦後処理を個人で続けた永瀬さんは素晴らしい方だと思いました。駒井さんのお父様のエピソードをもう少し聞きたかった。

◆盛岡市 40 代女性

- ・何も知らなかった・・・こんな歴史があったことを、永瀬さんご夫婦思い・・・。私は頑張って生きていかなければと思った、とても、良い映画でした。
- ・トークイベント、とても良かったです。アナウンサーの方のお話がとても上手で、いろんな知らないお話を聞けて良かったです。忘れません。
- ・とても良い企画をたてていただきまして、本当に今日はありがとうございました。

◆盛岡市 40 代女性

- ・タイやマレーシア、インドネシアなど、観光でよく訪れたが、戦時中の事はなにも知らなかった。知らないことは恥ずかしい事だと思いました。今日は、この映画を見ることが出来て良かったです。

◆矢巾町 30 代女性

- ・戦争によって人の人生を豹変させてしまうという実例を観せていただきました。永瀬さんのように人として忘れてはならないと思いつけて死ぬまで突き進んだ方がいることは素晴らしいと思います。タイで行われた過去の出来事も初めて知りました。海外との接し方も、自分自身、今後変わるように思います。

- ・貴重なトークでした。
- ・発する一言で、思わぬ縁ができ、人とのつながりが続く、未来が変わるということが分かりました。
気軽に海外に行けますが、このような過去の歴史を知ることは、国際理解にもつながり、人との接し方も考えられると思います。このような映画が残されたことは、意味深いと思いました。ありがとうございました。

◆滝沢市 20 代男性

- ・すごく、面白かったです。

◆盛岡市女性

泰緬鉄道に関して、私は勉強不足で、この度大変勉強になりました。しかし、これからは、クワイ河マーチが流れると、拷問のシーンを思い出してしまいそうです。このマーチが流行するきっかけの、「戦場にかける橋」の映画というのは、当時のアメリカが日本にヨイショするためのものだったとか。

駒井さんや、永瀬さんの逸話が今回のテーマだったので、アメリカ映画の方は話題には上がりませんでした。それも含めて紹介されると、もっと深まった気がしました。

先ほども NHK で、アレポの悲惨な状況が紹介されました。戦火の悲惨さ、悲しさ、と一言で片付けられないほど、人間は業の深い生き物だと思えばかりです。しかし、怨恨を超えて深い絆を育むことができるという希望の光を見出すことができるのも人間と思ひ、今回の映画はそれを語り尽くしていましたね。有難う御座いました。

◆平櫛田中の事 村田和代（横浜市）

ラジオ深夜便は早朝 4 時台など、とても起きられる時間ではないので諦めていましたが、たまたま 3 時半にトイレに起きたので、幸い聴かせて頂くことが出来ました。平櫛田中という人の事を全く知らなかった自分が恥ずかしいです。こういう立派な日本人が居たことを心に刻み、日本を大切に思う宝の一つに加えたいと思います。特に昨今ひどい話ばかり出てくる日本に誇りを持たない気持ちが強くなっているの・・・。

2017 年 3 月 18 日 岩手「クワイ河に虹をかけた男」上映会

アンケート集計

(入場者 230 名・回答者 87 名 : 38%)

居住地	滝沢市内		盛岡市内		岩手県内		岩手県外		未記入	合計
	24		47		12		2		2	
					(花巻、宮古等)		(群馬県)			
年 代	中高生	20 代	30 代	40 代	50 代	60 代	70 代	80 代	87 名	
	1	1	1	4	7	26	40	7		
性 別	男 性			女 性			未記入			87 名
	29			49			9			
何で知ったか？	新 聞	ラジオ・TV		チラシ	広 報	知人の紹介			87 名	
	6	2		19	4	56				

ドキュメンタリー映画「クワイ河に虹をかけた男」上映会に思う。

～2017年3月18日 滝沢市にて～ 岡山市 坂口 憲一郎

滝沢市の田園地帯の向こうには、純白の雪山が見えていた。ピカピカのビッグルーフ滝沢のホールでは、午前10時には、上映会実行委員会の人達が、会場の設営に取り掛かった。映画鑑賞に訪れた人は、230人。予想を超える大勢の人で、2016年12月スタートした実行委員会メンバーの努力が実った。アンケート調査（答えてくれた人87人）によると、60代、70代がざっと3分の2。感動したのは、アンケートの記入内容。意見、感想満載、戦争体験への関心が高い。トークイベントの駒井修さんはもうすぐ80歳。駒井さん世代の歴史証言者は、年々少なくなる。去年、唐丹希望基金の高館千枝子さんと知り合ったのが、この映画上映会「クワイ河に虹をかけた男」につながった。これも不思議な縁である。

永瀬隆さんを知ったのは、31年ほど前、彼がクワイ河平和基金を設立した頃。ラジオの「人生読本」で放送したところ、東京在住の方から100万円の寄付が寄せられた。永瀬さんは、びっくりして私にそのことを伝えてきた。永瀬さんには、思わぬ支援だった。それから30年、ラジオ深夜便で、活動を何度か紹介するにつれて、全国から500円、1000円と支援の輪が広がった。わずかな年金の中から寄付してくれる人もいた。永瀬さんの活動は、長年、全国の人に支えられてきたのだ。クワイ河平和基金は、タイに置かれ、苦学しているタイの若者たちの奨学金や教育支援に、今も充てられている。どんな活動も、その趣旨に賛成する一人一人の支援者の“こころ”なしには成り立たない。その基には、折に触れて永瀬さんが、話していた“慈悲の心”と“博愛とゆるし”の心がある。

永瀬さんには、数々の信じられないエピソードや体験を話していただいた。その一つ、カンチャナブリの広大な英連邦墓地に何度も墓参し、、、ある時、十字架のモニュメントに、首を垂れていたら、突然モニュメントから“光”が発し、身体がゆすぶられるほどの衝撃を受けたという。そばにいた奥さんに、「今の光を見たか」と聞いたが、奥さんは「何が、、、ときよとんとし」なにも見なかったという。この体験で、永瀬さんは、「私の罪は、許された」と感じ、その告白記事が英字新聞ジャパントイムズに掲載された。イギリスのロマックスさんの目にも留まったのだ。長年探し求めていた仇敵、拷問の場にいた、、、いつまでも頭の中で攻め立てる通訳の声、、、やっと見つけた。その時、殺意さえ感じたロマックスを心配した妻パティの手紙で、、永瀬さんは、ロマックスと和解の文通を始めることになる。4年後、1993年3月26日、映画「戦場にかける橋」の舞台カンチャナブリで、48年目の歴史的な対面だったのだ。永瀬さんとロマックスさんの和解が成り立ち、2人は、友達以上というほどの信頼関係が築かれた。その後、駒井修さんの訪問を受け入れた。駒井さんに渡されたカードには「いくら振り返っても、過去は変わらない。過去を嘆き悲しむのはやめて、未来の為に、今をしっかりと生きていきましょう、、、」と書かれていた。

とても大切なことばだと思う。永瀬さんが、残した言葉「戦争の非人間的な体験を、いろんな機会をとらえ、伝えなければいけない」、我々一人一人が受け継ぎたいものだ。

映画会を終えて

岩手「クワイ河に虹をかけた男」上映実行委員会 委員長
岡田 幸助（岩手県滝沢市）

<http://eec-2020.com/tushin/sonotatushin/kuwaigawatirashi.pdf>

3月18日に231名の参加者を得て映画会が終わった。昨年、11月12日に駒井修さんの講演を聞き、初めてこの映画の存在を知った。その時からみてわずか4ヵ月後に映画会が実現したことになる。今まで見ず知らずの実行委員がそれぞれの特技と人脈を生かして成功に結びつけた。戦争についてはとにかく被害のことがよく取り上げられるが、加害についてはあまり語られることがない。私は映画会直前の2月16日～21日に中国・南京市を訪問したが、日本がどれほどアジアの人々に被害を与えたかよくわかった。クワイ河の場合はイギリスの捕虜に対する加害であるが、世界の平和のためにはまず過去の歴史を正しく認識して、我が国の罪を認め、国として謝罪する必要があることを確信した。今後、一人一人の命と人権を大切にする生き方を追求していきたい。

最後に映画会開催に協力してくださったみなさま、会場に足を運んでくださったみなさま一人一人に心から御礼を申し上げます。

「クワイ河に虹をかけた男」上映会成功！！

上映会実行委員会 副委員長 箱石 邦夫（盛岡市）
（「戦中・戦後を語り継ぐ会」会長）

それは映画自体が素晴らしかったからでもあります。戦後10年ほどたった頃、「ビルマの豎琴」という映画が大ヒットしたことがありました。竹山道夫の小説を映画化したもの。戦争が終っても一人ビルマにとどまり、僧となって戦場に斃れた同胞たちの霊を弔う一兵士を描いた映画でしたね。永瀬隆さんの様々な活動は本来、国が進んで行わなければならない事でしたね。永瀬さんは多分、国家に愛想をつかし、ロマックスさんを励ましたというあのことば～Keep your chin up! をみずからにもささやき続けあの戦後処理の困難な仕事をお続けになったのではと思います。未だに未帰還の100万柱を超える海外戦没者がいるということを思い出すとき多くの日本人がこの映画に胸打たれる理由があるのだと思います。海外だけではなく、東京都小笠原村の硫黄島に未だに1万柱を超える未帰還兵がいます。戦後は決して終わっていないのです。

今年は戦後72年目ですが、日本は未だに国交さえ回復してない国があります。国内にあっても、未だに50万人とも60万人とも言われる民間空襲・艦砲等被害者たちの救済は未解決のままです。犠牲者数さえ正確には分かっておりません。東京大空襲について約10万人が犠牲になった、とよく言われますが正確な人数は不明のままです。釜石艦砲による犠牲者の正確な人数を求め、やっと昨年釜石市が動き始めました。これは全国に先駆けた動きです。軍人・軍属には戦後8年目に恩給法を復活させ、今日までに50兆円以上の国家資金を投入

してきました。敗戦直後、両親を失った戦争孤児たちがたくさん生まれました。国は何万という戦争孤児たちに何かをしたのでしょうか。その方たちはその後どうなったのでしょうか。岩波ブックレットNo. 750にジャーナリスト沢田猛さんが報告しています。

「おみすてになるのですか」と半生をかけて民間空襲被害者の国家による救済を訴え続けてきた杉山千佐子は、昨年9月18日、101歳の誕生日にお亡くなりになりました。戦災障害者たちを励まし続け、国に向かって叫び続けたのです。この努力があつてこれまでに14回も戦時災害援護法の制定を求める法案が野党から提案されました。しかしその都度、政権与党によって廃案となりました。

杉山さんの遺志を継いで、15回目の法案が今年やっと日の目を見ようとしています。国会に全政党からなる超党派の国会議連ができ、弁護士さんたちの力で法案原案ができかかっています。全国空襲連（全国空襲被害者連絡協議会～東京都墨田区押上1-33-4 中村ビル102～TEL/FAX:03-5631-3922）では、署名やカンパ、また会員の募集も行なっています。年会費は個人会員1口2000円です。戦後72年、あらゆる困難を乗り越え生き抜いてこられた空襲・艦砲等被災者たちに国による謝罪と補償を求める動きにぜひ関心を持っていただきたいと願っています。

2017.3.31

岩手「クワイ河に虹をかけた男」上映会実行委員会に参加して

上映会実行委員会 委員 沼宮内 レイ子（盛岡市）

高校同期生の赤澤さんのお誘いで、12月20日から仲間に入れていただきましたところ、駒井さんの奥様も同じ同期生とわかりびっくりしました。

駒井さんのお父様がこの戦争で亡くなられたこと、坂口さんや永瀬さんなど、初めて耳にするお名前が次々と出てきたりして、最初は何が何だかさっぱりわかりませんでした。そんな状態で実行委員になり何のお役に立つのかなと思いつつただ同席しておりましたが、高館さんの熱のこもった映画の説明をお聞きしているうちに、だんだん状況がつかめるようになりました。

私の父はシベリアに捕虜として抑留されて、帰って来ませんでした。どんなにして亡くなったのか、誰からも聞くすべもない状態でおりましたのに、駒井さんのお父様は、何故、関わった外国の人と、後に交流が出来たのかとても不思議でした。

この映画を通して「戦争はすべてを破壊する。人間が起こす最悪の行為であり、これを阻止するのも人間である。」と、本当にそうだと思います。今、私達戦後70年を過ぎて、平和な生活をして来たのも、こういう犠牲のうえに立ってのことだと深く感じました。人間は憎しみ合うものでないなど、忘れかけていたというより当たり前だと思いはじめていたことに気づかされました。戦後、日本は国として過ちを認めていませんが、それでは本当の平和とは言えないと思います。

この映画を通して個性豊かな方々との出会いがあり、私にとって大変な宝物になったと感謝しております。有難うございました。

実行委員としての独断と偏見の強い個人的反省と感想

上映会実行委員会 委員 石川 明彦（盛岡市）

1. 少人数の実行委員で、短期間の間必死に努力し、特段の事故もなく成功裡に終えられたのは奇跡に近い。諸々の理由から反省要点は、「十分な事前上映体験」が出来なかったことです。
 - 1) スクリーンの下部の日本語訳の文字が見えない。（この事項は、多くのアンケートで指摘された）
 - 2) 設定予定の「中央の最前席」の座席に座ると、当人の頭がスクリーンに映り、映写画面を壊してしまう。やむをえず、最善案を破棄し、中央の最前席 40 席を後方等に移動させたので、「後方通路座席」や「立見席」が大変窮屈になった。
 - ◆上記2点は、「十分な事前上映体験」を得ていれば避けられた事項です。やはり悔しいことですが、少人数短期間の必死の努力では、切り抜けられなかった事項なのでしょうね。
2. 幸い何事もなく終了できましたが、本来開催者として決して欠かしてはならない、「入場者への応急処置対応策」を事前に何も講じていなかった反省です。特に多くの高齢者を、狭い、窮屈な座席に休憩無しで2時間。病人も出ず無事でしたが、深い反省。「薄氷を踏んだ思い」です。

☆ 感想と感謝：今回の上映企画が成功裡に終了できたのは、「撮影内容」や「出演者（駒井さん、坂口さん）」の智力、会場の「ビッグルーム」の厚いお世話、入場された方々の深い関心力等が結集出来たことで、これは何と言っても実行委員が必死で努力した成果と思っております。
最後に、当日、本当に心強い「手助け支援の方々」に恵まれ、感謝です。
このような数々の成熟した成果に出会い「大成功 皆さん ご苦労サマー」。



2017年3月18日 「坂口さんを囲む会」



2017年3月28日 第7回実行委員会（解散）

渉外等記録

(事務局 高館千枝子)

月 日	訪 問 先	記 事 (チケット等依頼)
2016年 11月14日(月)	「クワイ河・・・」上映会の企画決意。 坂口氏、駒井氏にTELで伝える。	高館千枝子
11月15日(火)	「クワイ河・・・」実行委員会立ち上げ文書作成。	坂口氏に送信し、協力要請をする。 駒井氏に16日10時訪問の承諾を得る。
11月16日(水)	駒井氏宅訪問。 実行委員を依頼できる人を紹介して頂く。	箱石邦夫、岡田幸助、稲葉みどりさん、 の推薦を頂く。
11月17日(木)	実行委員依頼交渉 (午前Tel依頼・午後資料送信) 「委員長とは驚きました。末席に名前を連ねるだけで良かったのですが。成功するように頑張りますよ。岡田幸助」	◆箱石、岡田、赤沢：快諾。 ◆稲葉：辞退。 ◆坂口氏に岩手上映会誕生を報告。
11月18日(金)	「一度、どこかで第一回の実行委員会を行った方がいいですね。実行委員にも追加した方がいい方がいると思います。岡田幸助」	
11月29日(火)	初会合 岡田、箱石、駒井夫妻、石川、赤沢、高館	アイーナ4Fフリースペース集合。 初顔合わせ：自己紹介
12月20日(火)	第1回実行委員会 (準備委員会) 後援団体依頼、チラシ原案作り、会場予約の確認。	
2017年 1月10日	第2回実行委員会	沼宮内レイコ、藤澤拓子が実行委員に加わる。9人態勢で出発。
1月16日(月)	第3回実行委員会	

1月27日(金)	<ul style="list-style-type: none"> ・滝沢南中学校 (13:00~1:30) : 1, 2年生奉仕委員に話す。 ・ビッグライフ (14:00頃まで) : 施設見学 ・盛岡YMCA (16:00~15:00) : 事務局長：浜塚有史氏と会う ポスター1、チラシ 300枚 	岡田・高館
2月6日(月)	<ul style="list-style-type: none"> ・盛大附高校 12:30~ ・内丸教会 13:30~ 	岡田・高館
2月7日(火)	第4回実行委員会 10:00~	
2月8日(水)	愛宕町老人福祉センターへ チラシ 10枚	

		・ポスター4枚
2月15日(水)	<p>記者会見(於:県庁3F記者クラブ室 10:30から2:00)</p> <p>説明者:岡田幸助、駒井修、駒井幸子、高館千枝子</p> <ul style="list-style-type: none"> ・チラシ、チケット予約書を1枚ずつ配布。 ・岡田が映画のあらすじと実行委員会の趣旨を説明。 ・駒井さんが父親から届いた手紙、イギリスのロマックス訪問等を話す。 <p>出席報道者:9名</p> <ul style="list-style-type: none"> ・IAT岩手朝日テレビ報道制作局アナウンサー 畑中 綾乃氏・カメラマン ・産経新聞社編集局盛岡支局記者 土樋 靖人氏 ・岩手日日新聞社盛岡支局支社長兼営業部長 伊藤 正幸氏 ・河北新報社盛岡総局記者 横山 勲氏 ・朝日新聞盛岡総局記者 金本 有加氏 ・岩手日報社編集局報道部 宮川 哲氏 ・毎日新聞社盛岡支局 佐藤 慶氏 ・盛岡タイムス 	
2月16日(木)	岩手日日新聞掲載記事:映画「クワイ河に虹をかけた男」、来月18日、滝沢市で県内初映会	
2月17日(金)	<p>岩手日報掲載記事:</p> <p style="text-align: center;">大戦の過ち 贖罪の半生 映画「クワイ河に虹をかけた男」</p> <p style="text-align: center;">盛岡の駒井さん出演 来月滝沢で上映</p> <p>【記事を見て問い合わせした人】</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 男性(雫石町):駒井さんを新聞で知っていた、チケットを買いたい。 2. 男性(浄法寺町):チケットの売り場所を聞かれた。兄が泰麺鉄道で働いており処刑された。駒井さんのTELを聞かれたので教えた。 3. 男性94歳:盛岡市西下台町(ミャンマーで戦った。)ビッググループに行けないので盛岡の映画館で上映してほしい。 4. 女性84歳:盛岡市加賀野、県南から盛岡に嫁いだ。子供時代に戦争体験。バスで行く。 5. 女性60代:滝沢市在住、チケットの購入方法の問い合わせ。 6. 一関の方:一関では上映しないのか?ビッググループにTelあった。 	
2月27日(月)	盛岡タイムス掲載記事:戦後の和解に捧ぐ道、3月18日「クワイ河に虹をかけた男」上映 <small>ビッググループ滝沢で</small>	
2月28日(火)	<p>岡田・高館:ポスター、チラシ配り(13:30~16:30)</p> <ol style="list-style-type: none"> 1、滝沢ニュータウンシビックホール下見(ポスター依頼予定) 2、盛岡月が丘キリスト教会(チラシをポストへ) 3、滝沢市役所東部支所(ポスター、チラシ) 4、ハレルヤ保育園(ハレルヤチャペル:チケット3枚販売) 5、善隣館(チラシ) <p>岡田の中国南京旅行の写真を見ながら、お話を伺った。戦時中、アジアの国々で日本軍の戦争行為のすさまじさを知り、「クワイ河に・・・」上映会の意義深さを痛感した。</p>	
3月6日(月)	<p>第6回実行委員会 会場:ビッググループ滝沢 10:00~11:30</p> <p>◇ビデオ鑑賞会・場所:岡田幸助宅 11:45~15:45</p> <ul style="list-style-type: none"> ・参加者:駒井夫妻、石川、箱石、沼宮内、岡田夫妻、高館 	

	☆「クワイ河に・・・」 ☆「処刑台に向かって行く人は私の父細い光男です」1946/3/14 テレビ朝日ドキュメント 2007/8/5 鑑賞会
3月18日(土)	<p>1、実行委員集合（各自昼食持参）・・・10時</p> <p>2、講師・スタッフ集合・・・11時30分（坂口、柳澤一家、岡田夫人、高館）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・挨拶（諸連絡）・・・・・・・・・・実行委員長、スタッフ紹介、各係担当者 ・昼食・・・・・・・・・・フリースペーステーブルで各自 ・会場作り・・・・・・・・・・石川さんの指示で椅子並べ、受付等 <p>3、開 場・・・・・・・・・・13時</p> <p>4、映画上映日程</p> <p>司会：箱石邦夫 記録：柳澤智弘（群馬県新生会）</p> <ul style="list-style-type: none"> ① 主催者挨拶 13時20分 （岡田幸助） ② 上映開始 13時30分 ③ 上映終了 15時30分 （休憩15分） ④ トークイベント 15時45分 （坂口憲一郎、駒井修） ⑤ 閉会 16時30分 （石川明彦） ⑥ 後片付け 17時終了 ⑦ 「囲む会」会場へ移動 <ul style="list-style-type: none"> ・会場：ホテル東日本内 中華料理店「ごうか」・集合：18時 <p>5、坂口さんを囲む会（参加者17名）</p> <p>参加者：坂口、柳澤一家5名、伊藤、松下、岡田、箱石、石川、駒井、駒井夫人 赤沢、沼宮内、沼宮内夫人、高館</p> <ul style="list-style-type: none"> ① 開会 箱石邦夫 ② 挨拶 岡田幸助、坂口憲一郎、駒井修 ③ 乾杯 石川明彦 ④ 歓談 （感想を聞きあう） ⑤ 閉会 箱石邦夫 <p>解散 21時</p>
3月21日(火)	盛岡タイムス掲載記事 ：日英の戦後「和解への人生の旅路」-クワイ河に虹をかけた男」上映
3月28日(火)	第7回実行委員会（解 散） 会 場 きのえね本店 11時30分～12：00

岩手「クワイ河に虹をかけた男」上映会実行委員

委員 長 岡田 幸助
副委員 長 箱石 邦夫
委 員 駒井 修、駒井 幸子、赤沢 典子、石川 明彦
 沼宮内 レイ子、藤沢 拓子
事務局長 高館 千枝子